

# 未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



西條氏から栽培管理のポイントを熱心に聞く出席者

暑熱対策や育苗中のかん水の工夫を視察  
(写真上下)

## スマイル☺トマト女子会 現地研修会

スマイル☺トマト女子会は、トマト栽培技術について学びたい！というやる気いっぱいのJAびらとり管内農業者のグループです。現在会員数は39名で、会員が企画した内容を基に現地研修会や座学講習会を中心に学習活動を行っており、日高農業改良普及センター西部支所で活動を支援しています。

今年度は令和4年6月21日に町内トマト栽培視察会を会員自らが企画し、西條元氏のほ場（日高町平賀）で現地研修会が行われました。会員やその家族、新規就農を目指す研修生など26名が出席しました。

研修会では、自作の自動かん水装置と装置を活用した育苗管理方法をはじめ、暑熱対策や栽培管理のポイントについて西條氏より説明があり、出席者は熱心に耳を傾け、たくさんの刺激を受けた様子でした。特に、自動かん水装置に関して多くの質問が飛び交い、省力化やスマート農業機器への関心の高さが伺えました。

日高農業改良普及センター西部支所では今後も会員に寄り添い、自主的な活動支援とともに、知りたいこと、身につけたい技術を学べるよう支援を続けていきます。



自作の自動かん水装置

# 地域の活動事例を紹介します！

## 施設における緑肥を活用した土づくり

【本所 地域第一係】

新ひだか町・新冠町では、ミニトマト・花き・ピーマンハウスなどで、長年の連作により土壌の単粒化が進み、土壌環境の悪化が見られます。土壌の保水性や排水性が低下し、令和3年の高温少雨や令和4年の多雨等の気象条件の場合には、各作物に与える影響が大きいと見られ、改善が必要です。

そこで、本所地域第一係では令和2年より担当する2町3農協とともに、土壌環境改善のために緑肥の活用をすすめています。「農業者が導入しやすい時期に、農業者が望む効果を得られる緑肥」を選定できるよう、越冬作型や早春作型など様々な作型での導入効果を確認しています。

本年は品種比較試験も実施し、初夏まき作型では施設栽培の特徴を活かした温度管理により、栽培期間や腐熟期間の短縮化も検討しました。

「日高ならではの施設ならではの良さを活かした緑肥による土づくり」が広まるように、今後も関係機関と連携して取り組みます。



初夏まきの緑肥品種比較



35日後の各緑肥の草姿



農業者・関係機関との現地研修会

## 夏秋どりいちごの経営安定化に向けた取組み

【本所 地域第二係】

浦河町・様似町の夏秋どりいちご農業者の多くは新規参入者で、技術・情報の提供や省力化が不可欠となっています。

普及センターでは様似町田代地域の農業者とともに、夏秋どりいちご農業者の経営をより安定させるため「適正な株管理」「病害虫防除の徹底」「作業の効率化」に取り組んでいます。

特に病害虫防除の徹底では、地域で使用している農薬一覧表をRACコード※に基づき編集し、ローテーション防除を実施しやすい環境を整えました。

さらに、給液量の管理を目的に行われる排液量の確認作業では、作業に要する時間が負担になっていることから、省力化を進めています。現在、中古の上水道メーターを活用した流量計を作成し、導入の効果を検証中です。

今後も、基本技術に基づいた支援と新たな創意工夫で、地域と共に歩んでいきます。

※RACコード＝農薬の作用点や作用機構から有効成分を分類したコードのこと



巡回による技術支援



上水道メーターを利用した流量計

# 地域の活動事例を紹介します！

## 平取町紫雲古津地区研修会

【日高西部支所】

令和4年8月19日に日高西部支所重点地区（平取町紫雲古津地区8戸）で水稻現地研修会を開催しました。当地区は、施設園芸と水稻の複合地帯で、主力作物の大玉トマトに労働時間を要するため、水稻は省力化が求められています。普及センターでは水稻の省力化技術導入を提案しており、今年度については、高密度播種中期育苗、ロング肥料苗箱施用、基肥全量苗箱施用などの実証ほを現地で設置し、経過を調査してきました。

現地研修会では、令和4年の気象、生育の経過を含め、実証ほの途中経過を説明しました。また、実際に実証ほを設置した農業者からも気づいた点などを報告してもらい、省力化技術導入への課題や省力化への手応えについて共有しました。

基肥苗箱施用実証展示（資材名「苗箱まかせ」）については、道内ではほとんど事例がなく、農業者から質問がいろいろ出され興味の高さがうかがえました。

高密度播種中期育苗とロング肥料苗箱施用については、段階的にすでに導入されていて、地域に更に波及されるように活動を進めていきます。



現地研修会



高密度播種の様子



現地実証試験ほ設置（ロング肥料苗箱施用）

## JA営農指導員技術研修を支援しています！

【広域班】

営農指導業務に携わる管内の若手JA職員を対象に、JA北海道中央会主催の研修会が7～11月に6回開講されました。普及センターでは耕種と畜種の部門ごとでのカリキュラム作成を支援し、中央会・役場と分担して講師を担当しました。

研修にはJAびらとり、JAしずない、JAひだか東から耕種担当2名、畜種担当2名の他、振興局4名と普及センター3名の若手職員が参加しました。

研修会は基礎知識を習得する座学と、それに関わる現地研修で構成し、現地では農業者のほ場を見ながら、水稻収量向上や草地雑草対策の課題解決について説明しました。

研修生からは、「水稻品種の適地適作があることや収量の多い品種があることがわかり良かった」「牧草と雑草の違いを図解入りで説明してくれたので理解できた」「今後の営農指導に役立てたい」等の意見が出され、大変有意義で内容の濃い研修となりました。

次年度も継続する予定です。

研修カリキュラム

月日	内 容
1 7/25 全体	開講式、普及事業と普及センターの役割 肥料・農業の基礎
2 8/25 耕種	水稻優汰ほ場・ミトワノスの現地視察 水稻・ミトワノスの栽培基礎知識
3 9/8 耕種	土壌診断結果の活用方法(平取町農業支援センター) トマト・キュウリホスの現地視察
4 9/12 畜種	牧草と雑草の見分け方における現地視察 牧草の基礎、施肥設計の基礎
5 10/18 畜種	和牛の育成について 和牛管理における現地視察
6 11/17 全体	GAP・HACCPについて、生産原価分析 総合討議、閉講式



水稻品種比較試験ほ場での研修



牧草と雑草の見分け方研修

## 新ひだか町担い手育成協議会 三石部会始動

新ひだか町農業担い手育成協議会では、令和4年4月より新たに三石部会を設置し、関係機関が連携し、花きの新規就農者の各種支援に取り組んでいます。構成員には指導農業士等の農業者4名が含まれており、積極的な助言も得られる等、就農希望者や新規就農者の支援において心強い存在になっています。

これまで、三石地区には6組7名が花きで新規就農しており、現在1組2名が研修中です。就農希望者が町の施設や農家研修での実践を通じて、2年間で栽培管理や作付けスケジュールなどを習得できるよう、カリキュラムに沿った支援を行っています。

就農後も地域の担い手として定着するよう、関係機関と連携して支援を継続していきます。



新規就農者の現地巡回

## 令和4年採用 新人普及職員の自己紹介

### 古山 由実佳

令和4年2月に採用された古山由実佳と申します。出身は岡山県で、大学進学を機に北海道に参りました。日高に住むのは初めてですが、過ごしやすい気候や軽種馬の放牧風景がすっかり気に入っています。

業務では園芸作物の担当となり、今はミニトマトを中心に勉強しています。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。（本所地域第一係）



### 北本 美穂

出身は岩見沢市で出身校は酪農学園大学です。大学ではアスパラガスの研究を行っていました。

好きな飲み物はクラフトボスのレモンティーで毎月箱で買っています。

現在は園芸担当として日々の巡回等で多くの知識や技術を学んでいます。1日でも早く農業者のお役に立てる普及員になれるよう努力します。よろしくお願ひいたします。（日高西部支所）



### 笹村 星夜

出身は旭川市、実家は東川町です。千葉大学の大学院で環境微生物学を専攻していました。

趣味はピアノ演奏と古着屋巡りです。

現在、担当地区の主要作物であるトマトの勉強中です。

農業に関してはド素人ですので、先輩たちに追いつけるようこれから沢山勉強して農業者に頼られる一人前の普及員を目指します。（日高西部支所）



日高農業改良普及センター本所

TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521

〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所

TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918

〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>